



2013年12月期決算説明会



コスモ・バイオ株式会社

(証券コード:3386)

2014.2.18

www.cosmobio.co.jp



目次



人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

1. 会社概要と事業の内容・・・・・・・・・・・・・・・・ p.3
2. 2013年12月期決算の概要・・・・・・・・・・・・ p.10
3. 2014年からの取り組み・・・・・・・・・・・・ p.23

1. 会社概要と事業の内容

www.cosmobio.co.jp

会社概要



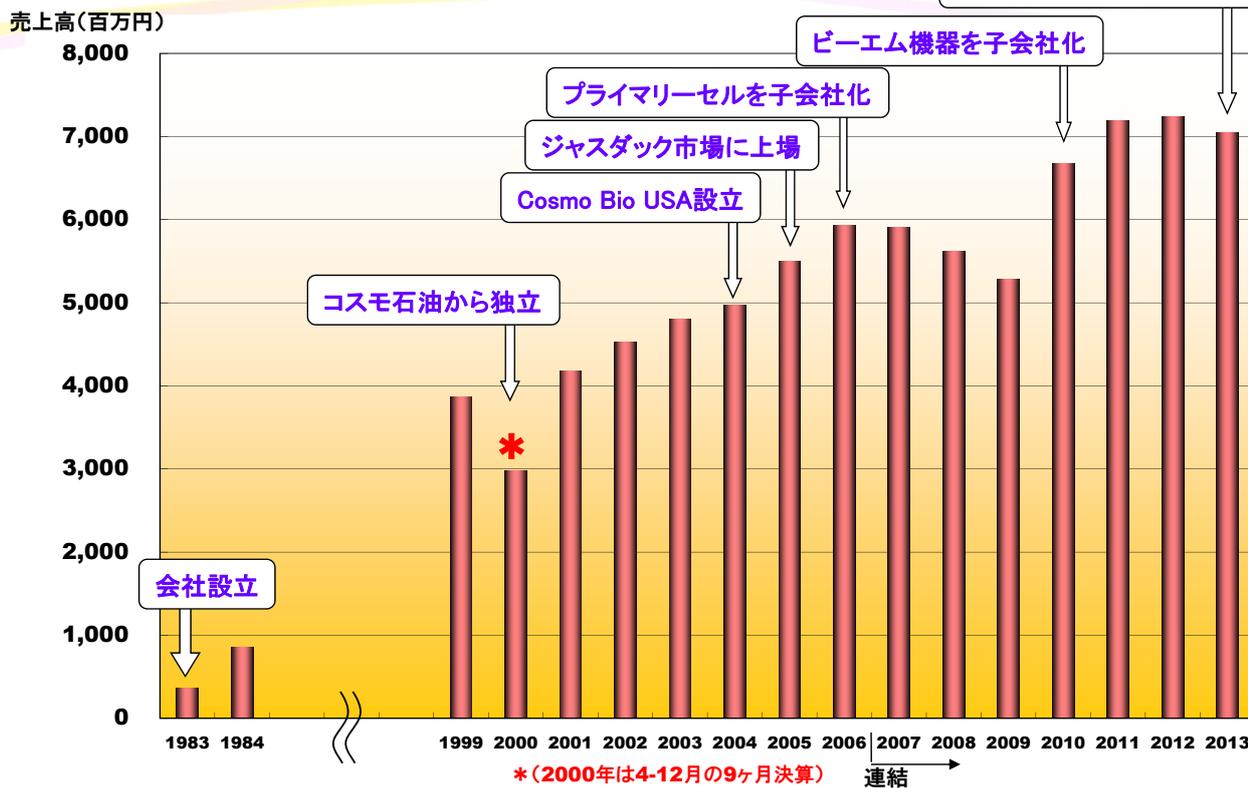
社名:	コスモ・バイオ株式会社
業種:	卸売業
上場市場:	東京証券取引所JASDAQ
コード:	3386
本社所在地:	東京都江東区東陽二丁目2番20号
代表者:	代表取締役社長 笠松 敏明
設立:	1983年8月25日
事業内容:	ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、臨床検査薬の仕入れ(一部自社製造)及び国内・海外販売
資本金:	918百万円
事業年度:	1月1日から12月31日まで
従業員数:	連結:124名 個別:89名 (2013年12月31日現在)
連結子会社:	ビーエム機器株式会社
非連結子会社:	Cosmo Bio USA, Inc.



ライフサイエンス研究を支援する専門商社



当社の歩み

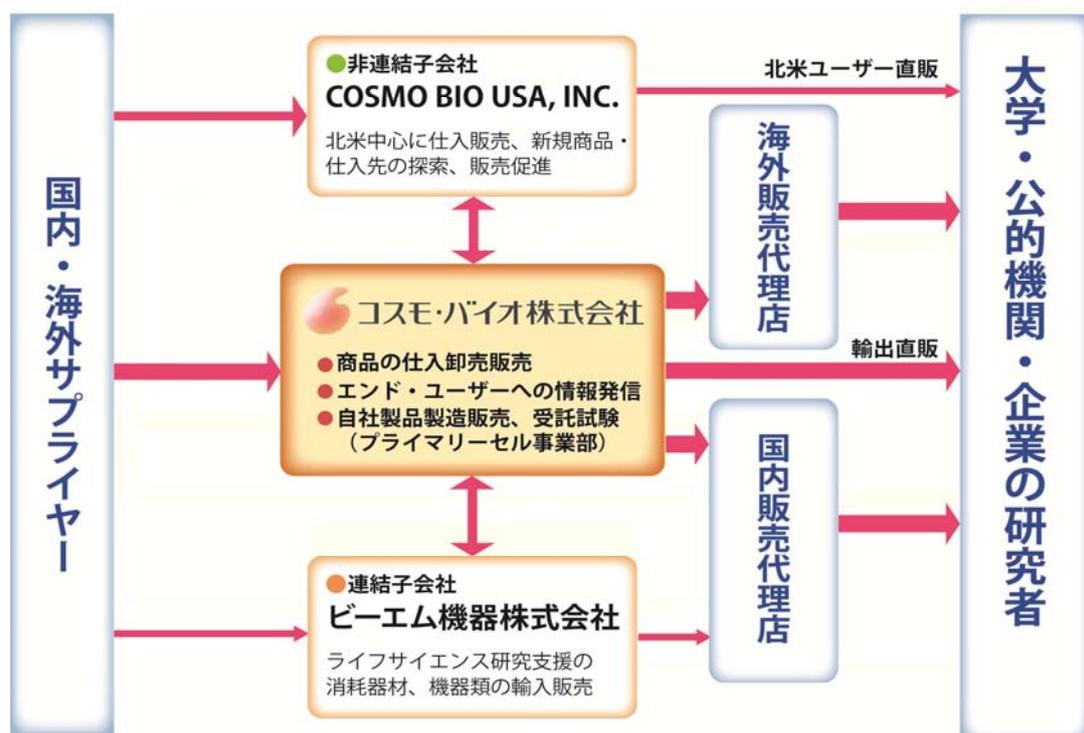


事業内容およびグループ経営体制



- 研究活動に必要不可欠な『試薬』と『機器』の両面からライフサイエンス研究を支援
- 商社機能にメーカー機能を一部複合させ、安定的な事業拡大を推進

ビジネスモデル 「世界のライフサイエンス研究を支援する専門商社」



約600社の仕入網



26拠点の海外販売網



約200拠点の国内代理店網



コスモ・バイオ株式会社

2. 2013年12月期決算の概要

www.cosmobio.co.jp

2013年は下記5項目を 最重点課題として取り組みました。

1. 自社ブランド品・注目商品拡充のための
新技術・商品導入の促進
2. 商品情報サービスの徹底
3. 海外販売網の拡充加速・代理店との関係強化
4. 有望市場分野への注力
5. 経営の合理化・効率化

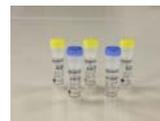
■ 自社ブランド品・注目商品拡充のための新技術・商品導入の促進 ・取扱い商品が約400万品目に



・自社ブランド4万品目達成！

開発事例

- ①D-セリン測定キット
- ②CD44バリエーション抗体
- ③マクロキラー



■ 経営合理化・効率化

2013年7月、子会社(株)プライマリーセルの吸収合併を行い、プライマリーセル事業部として一体運用を開始

・研究・開発・製造機能の一体化により、開発効率を向上させ、有望市場ニーズへの対応力を強化して自社ブランド商品のさらなる拡大強化

メーカー機能強化に努め、独自の研究支援体制の整備を進めました

2013年重点課題取り組みについて

- 海外販売網の拡充加速、
代理店との関係強化
- ・第1回海外代理店ミーティングを開催
 - ・海外代理店網を26社に拡大



- 商品情報サービスの徹底
- 学術集会にて、サプライヤーとの協力により、ランチョンセミナーを3回開催



BIONEER
Innovation • Value • Discovery

In Cell art

abm abm

- 経営合理化・効率化

2013年1月、新砂物流センターにて物流業務を開始

- ・業容拡大に伴い配送センターを移転し、新物流センターを開設
- ・延床面積を拡張し商品保管設備を一新、さらなる在庫の充実



商社としてのインフラ強化に努め、中長期的な成長の為の基盤整備に注力しました

連結業績ハイライト

売上高

【前年比】

97.4%

【参考：予算比97.3%】

大学・公的研究機関：

昨年度に引き続き、予算執行が慎重であった

企業：

研究開発等への投資には堅実な姿勢を継続しており、市場全体としては弱い動向であった

純利益

【前年比】

76.1%

【参考：予算比103.3%】

当期ドル/円為替レートは平均96円。前年度平均79円に比べ、17円の円安ドル高で、商品原価の増加により利益減

連結損益計算書

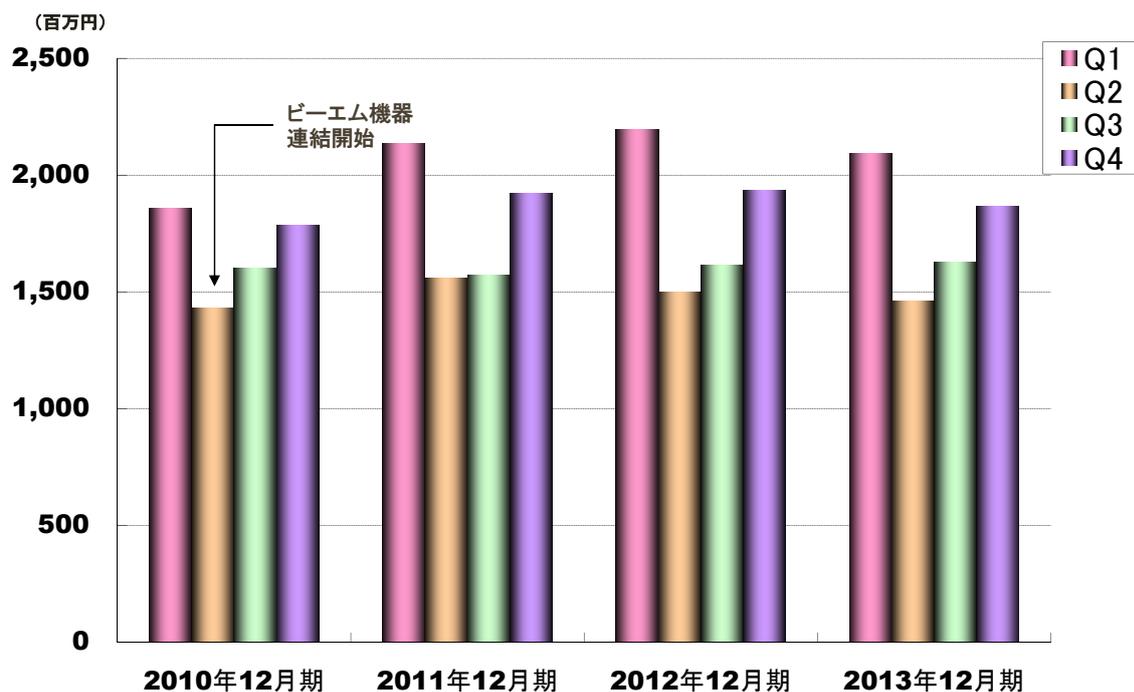
(単位:百万円)

	2012年	2013年	増減額	増減率
	実績	実績		
売上高	7,241	7,050	△190	△2.6%
売上総利益	3,184	2,620	△563	△17.7% 注1
営業利益	798	271	△527	△66.0%
経常利益	801	444 注2	△356	△44.5%
純利益	411	313	△98	△23.9%

注1 円安による輸入品の仕入原価の増加

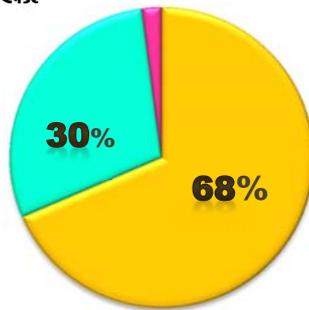
注2 為替予約による為替差益

四半期別連結売上高動向

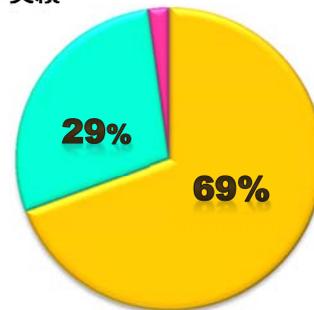


商品分類別連結売上高

2012年実績



2013年実績



(単位:百万円)

連結	2012年実績		2013年実績		増減額	増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比		
研究用試薬	4,929	68.1%	4,892	69.4%	△37	△0.8%
機器	2,165	29.9%	2,012	28.5%	△151	△7.0%
臨床検査薬	146	2.0%	145	2.1%	△0	△0.4%
合計	7,241	100.0%	7,050	100.0%	△190	△2.6%

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2012年12月末	2013年12月末	増減額
総資産	6,955	8,277	1,322
流動資産	5,413	5,527	114
固定資産	1,541	2,750	1,208
負債合計	1,234	1,479	245
純資産合計	5,720	6,797	1,076
株主資本	5,192	5,386	194
自己資本比率	75.2%	76.2%	

注1 当社が株式を保有する企業の上場による、投資有価証券の大幅増加

注2 同投資有価証券に対する繰延税金負債の増加

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

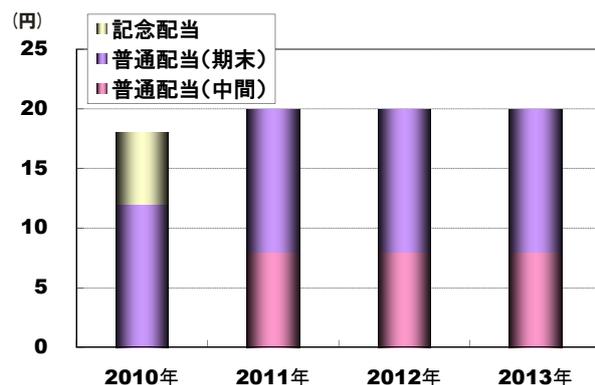
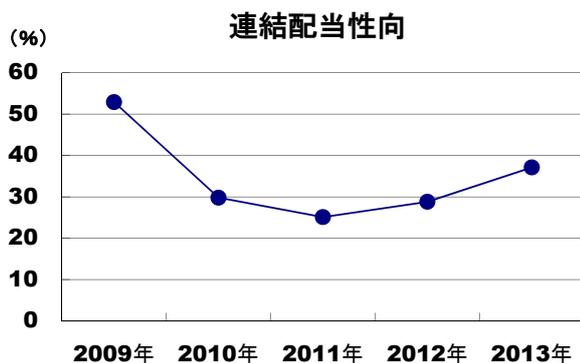
	2012年 実績	2013年 実績	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	347	126	△220 注
投資活動によるキャッシュ・フロー	△167	△99	67
財務活動によるキャッシュ・フロー	△126	△126	0
現金及び現金同等物の増加額	61	△97	△158
現金及び現金同等物期末残高	1,532	1,435	△97

注 税引前当期純利益の減少

配当について

	1株当たり配当額		
	中間	期末	合計
2013年 12月期	8円	12円	20円
2012年 12月期	8円	12円	20円
2011年 12月期	8円	12円	20円
2010年 12月期	—	18円 (うち普通配当 12円) (うち記念配当 6円)	18円

* 2013年1月に、1株につき100株の株式分割を行っています。
1株あたり配当額は、この株式分割を2010年12月期の期首に行つたと仮定して算定しています。

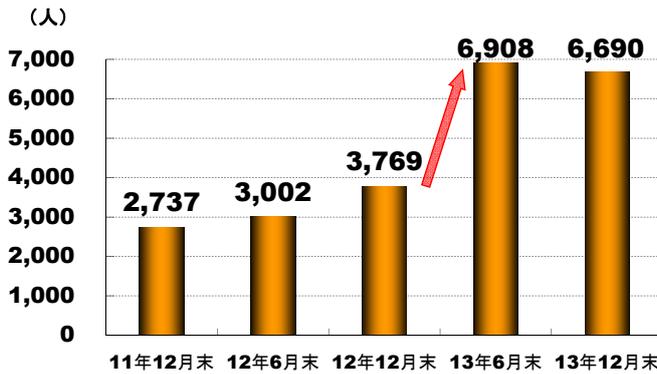
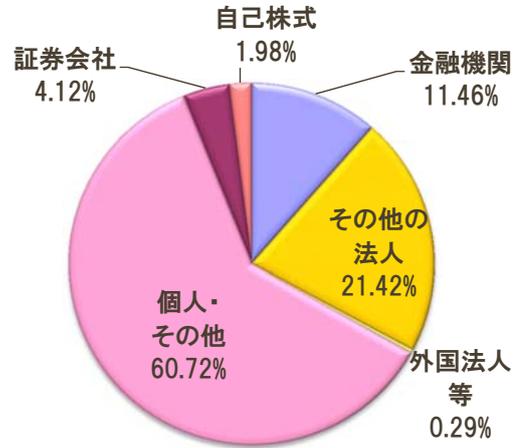


株式の状況(2013年12月末現在)

株主数の推移

発行可能株式総数	18,361,600株
発行済株式の総数	6,048,000株
自己株式数	120,000株

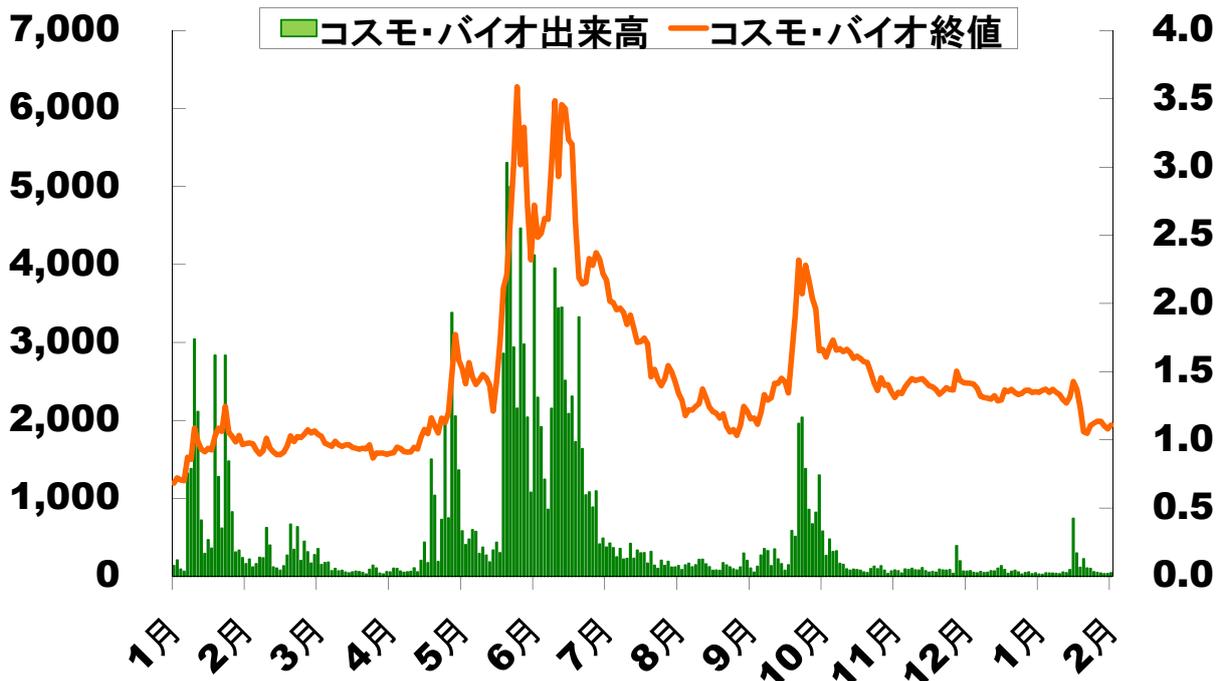
所有者別株式分布状況



株価推移(2013/1/4~2014/2/17)

株価(円)

出来高(百万株)



昨日(2月17日)の終値:1,939円

3. 2014年からの取り組み

www.cosmobio.co.jp

2014年からの取り組み

「成長と信頼の研究支援会社の実現」

顧客満足度の追求

研究動向にあった商品・サービスの導入、製品開発の強化、顧客の求める情報提供の充実

業容の拡大

販売、商品開発、業務効率化・強化のための投資
仕入先との関係強化・提携等の推進

経営基盤の安定化

株主資本、経営資本の安定、事業リスクの低減化(仕入先M&A,為替、法規制等のリスク)

2014年12月期の連結業績見通し

(単位:百万円)

	13/12月期 実績	14/12月期 予想	対前年比	
			増減額	増減率
売上高	7,050	7,300	249	3.5%
営業利益	271	258	△13	△4.9%
経常利益	444	394	△50	△11.4%
純利益	313	233	△80	△25.6%
売上高経常利益率	6.3%	5.4%	—	—

為替レート	13/12月期 実績	14/12月期 予想
円/USドル	96円	105円

ご注意

- 本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述部分は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきくださいますようお願いいたします。
- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社株式への投資勧誘を目的としておりません。

《IRに関するお問い合わせ先》
 コスモ・バイオ株式会社 経営企画室
 ir-contact@cosmobio.co.jp

当社IRサイト
<http://www.cosmobio.co.jp/ir>

ライフサイエンス研究の市場環境

大学・公的研究機関

- 政府(文部科学省、厚生労働省、農林水産省など)のバイオ研究開発予算は、財政再建のため公的予算の見直しが続くなか、iPS細胞などに代表される再生医療分野等は伸びも大きく、成長が期待される。

企業

- 一定の需要はあるものの、引き続き研究開発テーマの絞り込みが見られ、市場は微増から横ばい傾向が継続。



2011年度より、研究費の複数年度基金化が開始。

2013年度は、実質的な予算額(グラフ黄色)ペースで対前年度より約0.5%増に留まる。

2014年度の予算要求額は、2013年度比約0.9%増の予定。

日本学術振興会ホームページより
※2011年度より一部研究の基金化を行っており、次年度以降の研究費分として執行予定の研究費を含んでいる(グラフ黄緑色)。